

I. 調査結果の概要

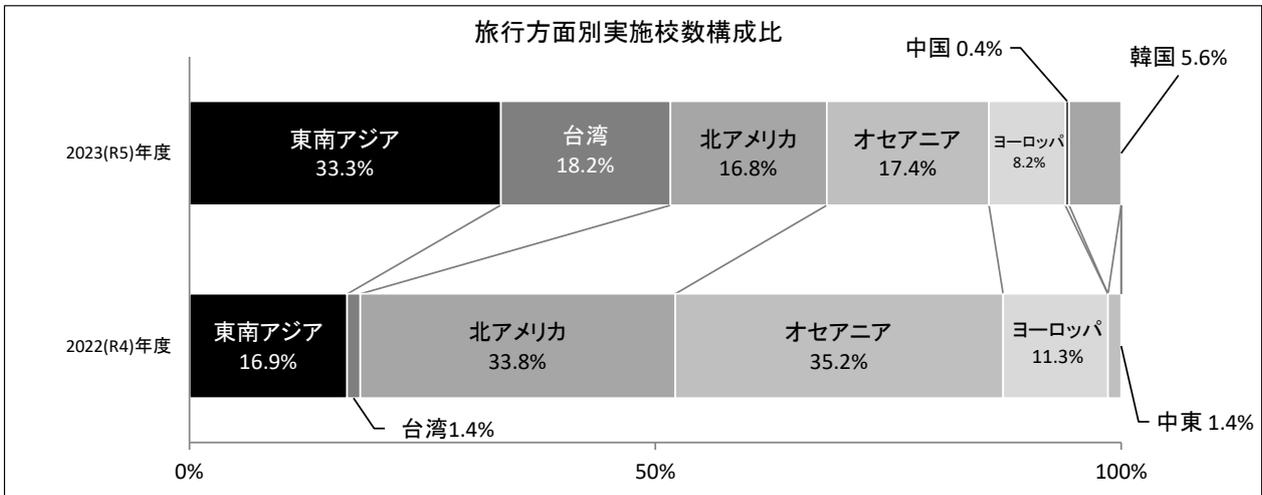
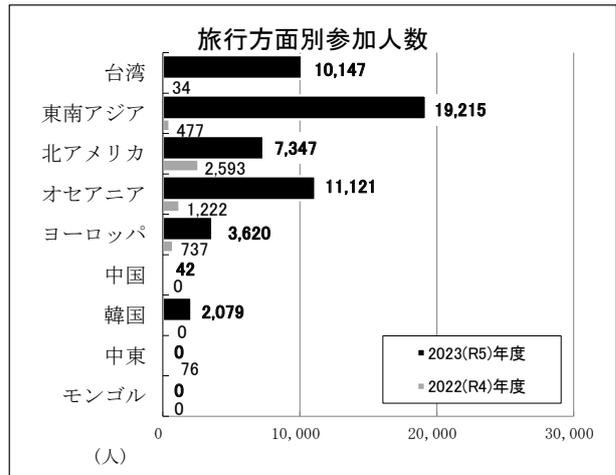
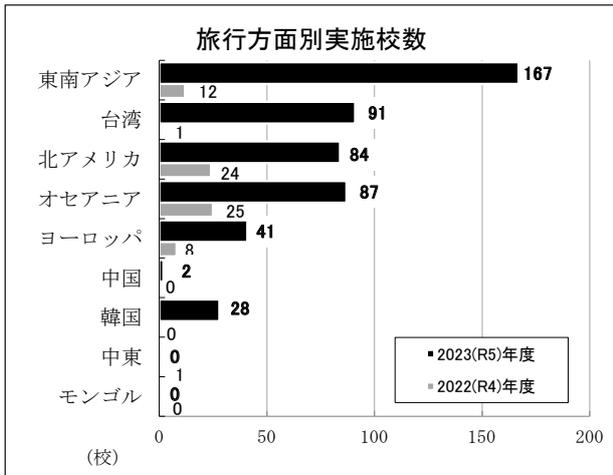
(1) 2023（令和5）年度 海外修学旅行の実施状況

[全国の動向]

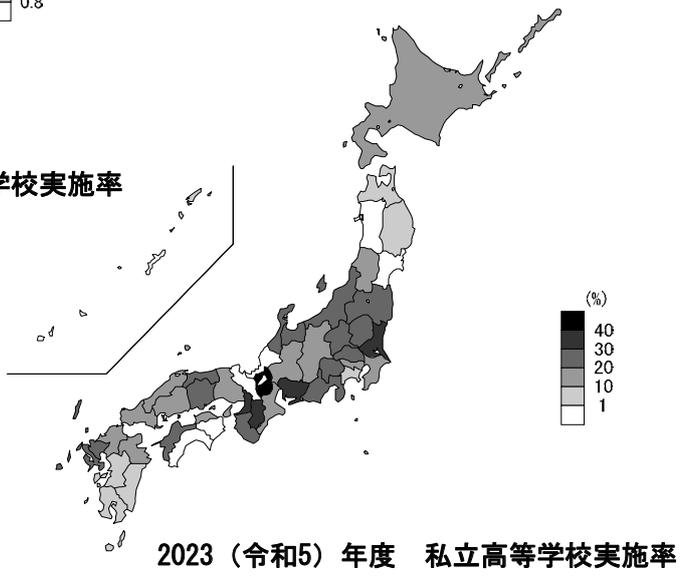
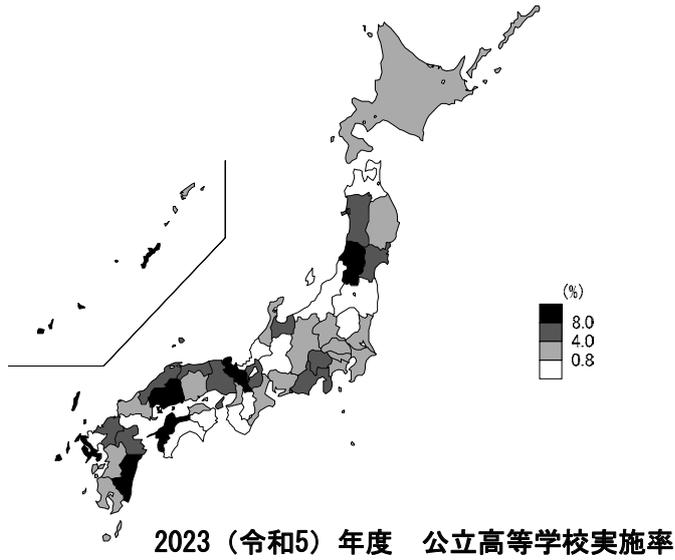
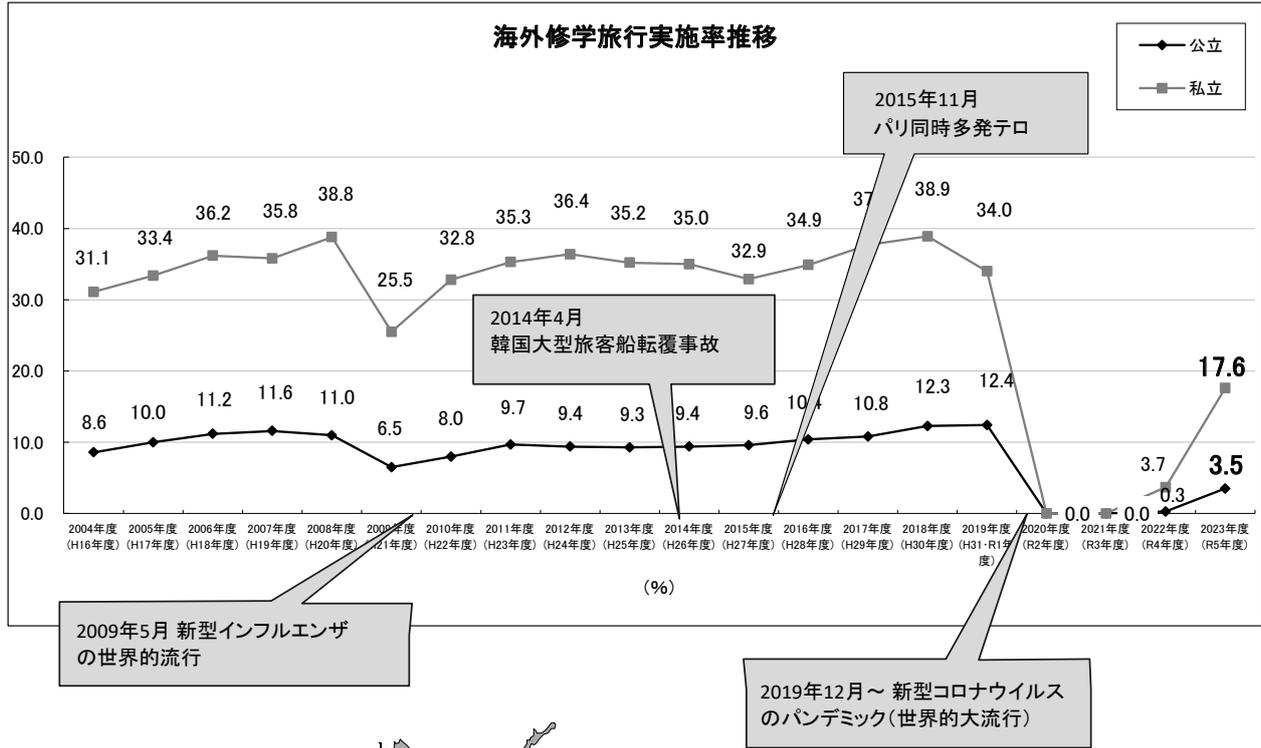
- 海外修学旅行が本格的に再開された。
 全国47都道府県中43都道府県で359校（公立123校、私立236校）の学校が海外修学旅行を実施。49,354人（公立15,559人、私立33,795人）の生徒が海外の地を踏んだ。昨年度の一部再開から2年目にしての、この大きな前進は学校教育における、国際理解への意識の高さを意味する。今、海外修学旅行には様々な課題（原油価格等の高騰）があるが、実施に踏み切る学校は今後、加速度的に増えていくものと考え。
 - 旅行先（延べ数）では、38ヶ国・地域に501校53,612人が訪問。
 訪問国の上位は、オーストラリアの78校10,418人が最も多く、台湾（91校10,147人）、シンガポール（80校9,955人）と続く。昨年度、様々な入国制限により対応が間に合わなかった海外修学旅行の訪問国として最も多かった台湾は、公立校の再開に伴う需要とともに大きく伸びた。
- 今後増加傾向にある海外修学旅行だが、深刻な原油高の中実施するために工夫が求められる。訪問国の選定もその一つであり比較的安価な「韓国」が上位に入ってきている。（既にコロナ前を上回っている）

① 実施状況

区分	計			公立			私立		
	実施校数	旅行件数	参加生徒数	実施校数	旅行件数	参加生徒数	実施校数	旅行件数	参加生徒数
2023(令和5)年度	359	510	49,354	123	148	15,559	236	362	33,795
2022(令和4)年度	58	83	5,111	9	10	654	49	73	4,457



※グラフは延べ数を基に作成。



② 公私立高等学校の訪問国別生徒数 上位10ヶ国・地域（前年度比較）

国・地域	2023(令和5)年度		
	都道府県数	校数	人数
オーストラリア	29	78	10,418
台湾	33	91	10,147
シンガポール	31	79	9,955
マレーシア	20	38	4,529
ハワイ	16	26	2,590
ベトナム	13	19	2,589
グアム	14	18	2,085
韓国	20	28	2,078
アメリカ本土	13	25	1,566
イギリス	10	13	1,554

国・地域	2022(令和4)年度		
	都道府県数	校数	人数
オーストラリア	17	23	1,182
アメリカ本土	8	11	1,104
カナダ	4	4	779
ハワイ	5	7	637
イギリス	3	3	529
シンガポール	5	6	309
スペイン	1	2	92
UAE(アラブ首長国連邦)	1	1	76
グアム	2	2	73
インドネシア	2	2	69

②-1 公立高等学校の訪問国別生徒数 上位10ヶ国・地域（前年度比較）

国・地域	2023(令和5)年度		
	都道府県数	校数	人数
台湾	25	52	6,433
シンガポール	17	26	3,144
マレーシア	8	15	1,775
オーストラリア	10	15	1,562
ベトナム	6	6	1,217
グアム	6	6	813
韓国	7	8	552
ハワイ	5	6	480
アメリカ本土	2	4	176
カナダ	4	4	167

国・地域	2022(令和4)年度		
	都道府県数	校数	人数
ハワイ	1	2	224
シンガポール	2	2	210
オーストラリア	3	3	142
アメリカ本土	1	1	40
カナダ	1	1	29
ニューカレドニア	1	1	9

②-2 私立高等学校の訪問国別生徒数 上位10ヶ国・地域（前年度比較）

国・地域	2023(令和5)年度		
	都道府県数	校数	人数
オーストラリア	22	63	8,856
シンガポール	23	53	6,811
台湾	23	39	3,714
マレーシア	14	23	2,754
ハワイ	13	20	2,110
韓国	14	20	1,527
イギリス	9	12	1,520
アメリカ本土	12	21	1,390
ベトナム	8	13	1,372
グアム	10	12	1,272

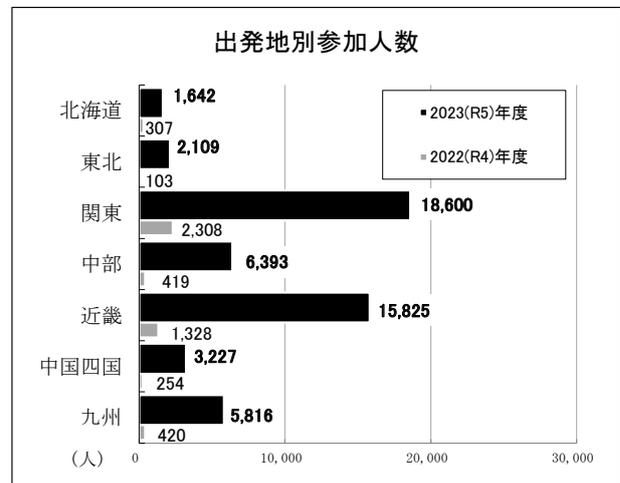
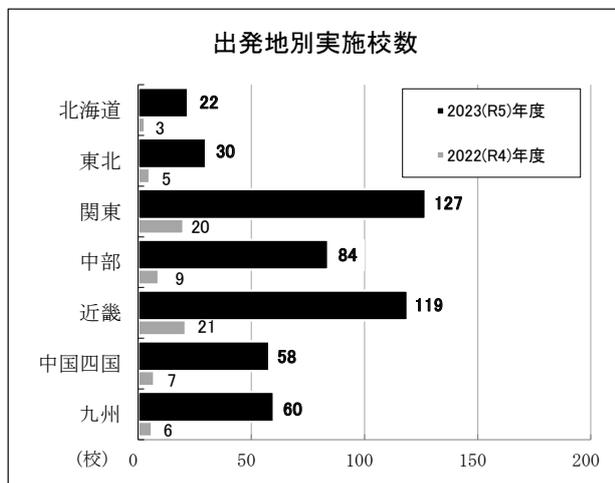
国・地域	2022(令和4)年度		
	都道府県数	校数	人数
アメリカ本土	8	10	1,064
オーストラリア	15	20	1,040
カナダ	3	3	750
イギリス	3	3	529
ハワイ	4	5	413
シンガポール	3	4	99
スペイン	1	2	92
UAE(アラブ首長国連邦)	1	1	76
グアム	2	2	73
インドネシア	2	2	69

[都道府県別の動向]

北海道・東北・四国地方は「台湾」、関東地方は「東南アジア」「オセアニア」、中部・近畿・中国・九州地方は「東南アジア」が主な訪問国・地域として選ばれている。

【 都道府県別実施状況 】

公立：36都道府県 私立：40都道府県（※P90～P95参照）



※グラフは延べ数を基に作成。

[公私立別の状況]

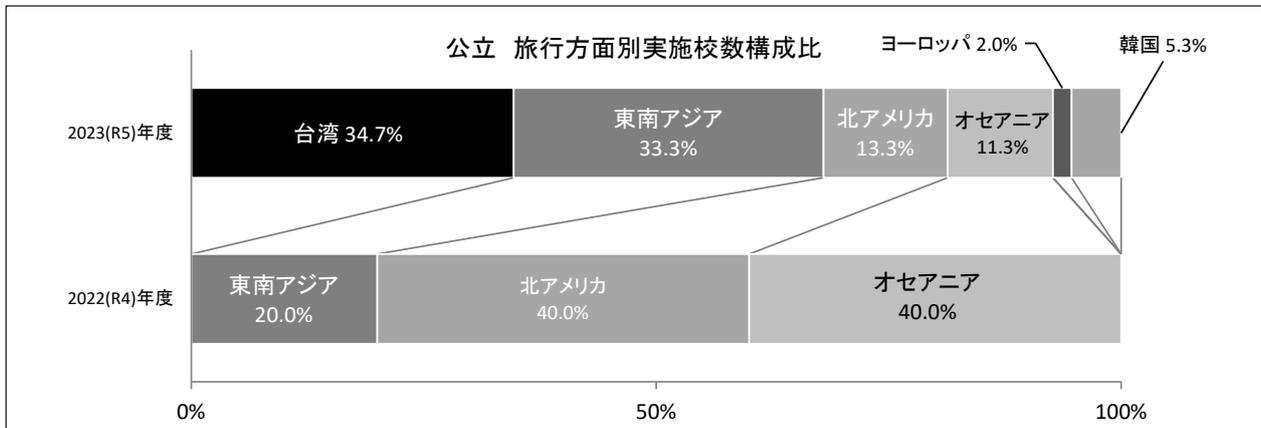
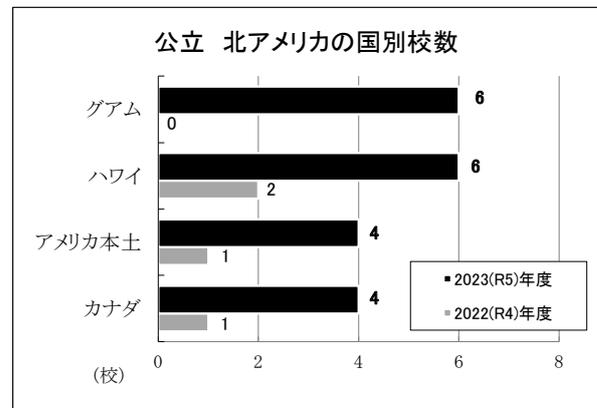
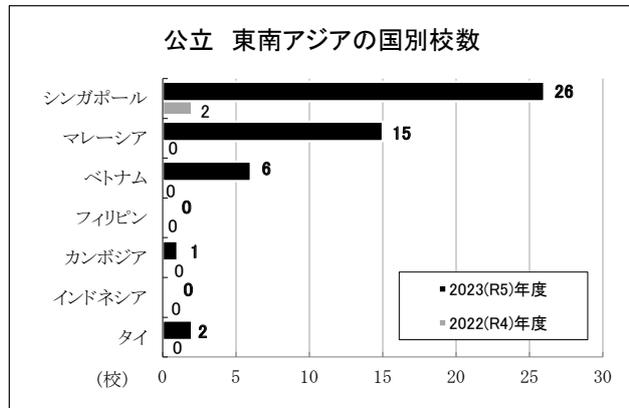
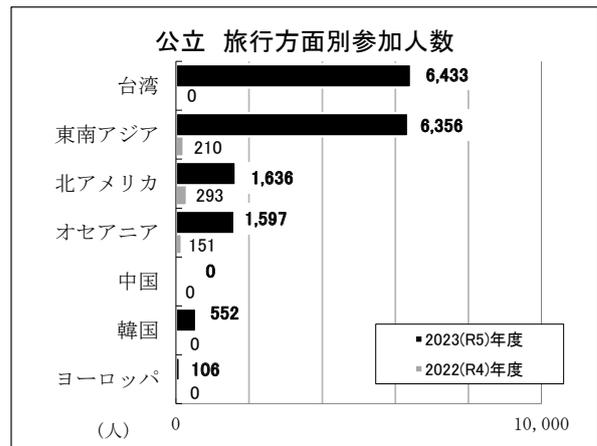
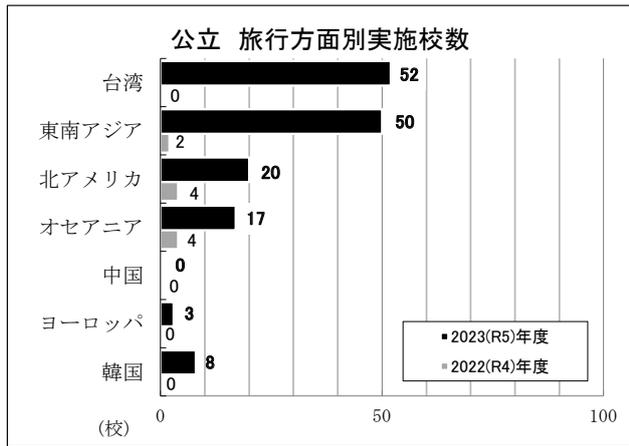
① 公立高等学校

○ 実施校数は、123校。15,559人が参加した。旅行実施件数は148件であった。

○ 旅行先(延べ数)では、17か国・地域に150校16,680人が訪問した。

公立校の海外修学旅行で最も需要の高い台湾が52校6,433人で全体の4割弱を占めた。東南アジアでは、シンガポール、マレーシアに次いでベトナムが多い。(6校1,217人) 経済成長著しい国から感じ取る学びやベトナム戦争に関する平和学習、学びに旺盛な現地学生との交流など国際理解教育としての評判も高く、旅行費用の面からも公立高校の訪問国として人気がある。

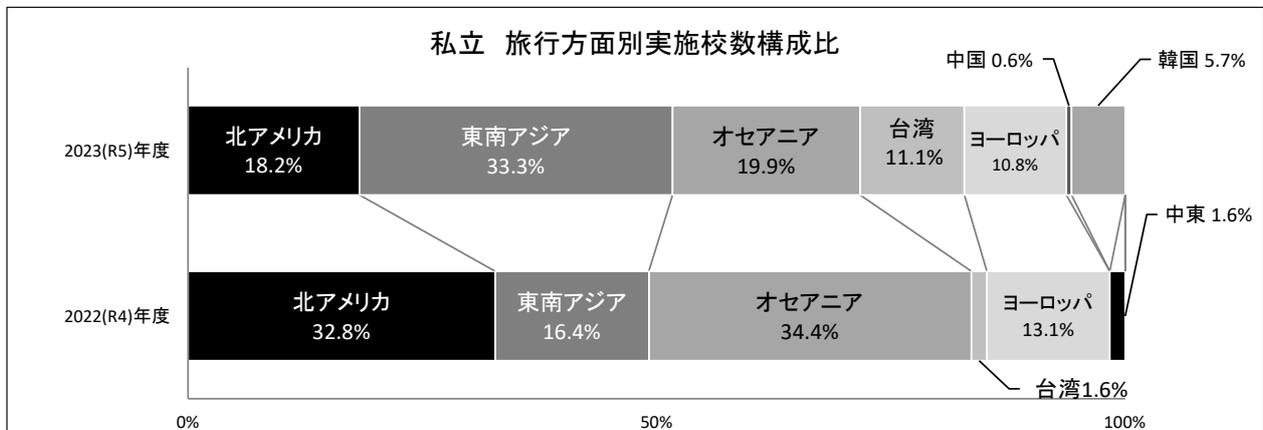
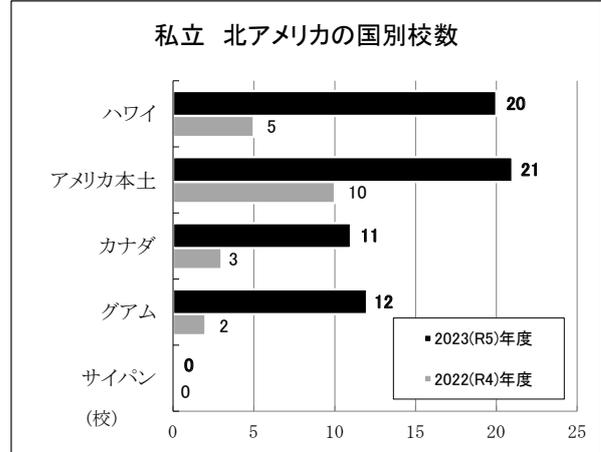
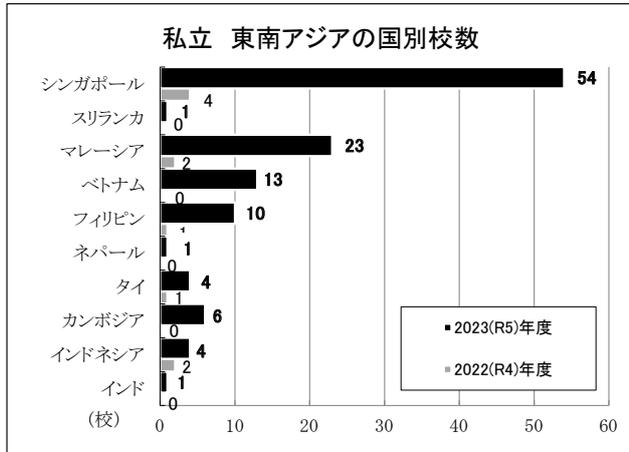
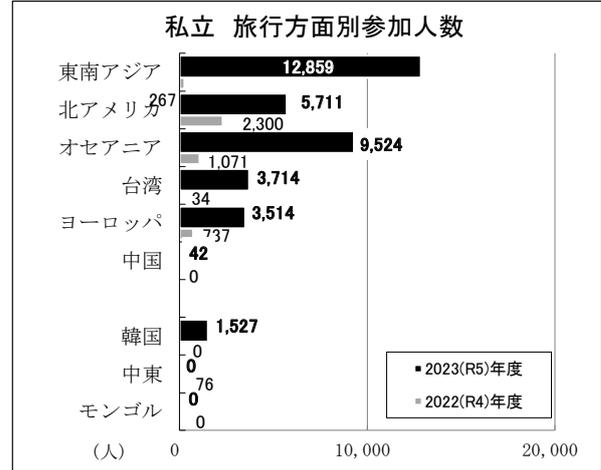
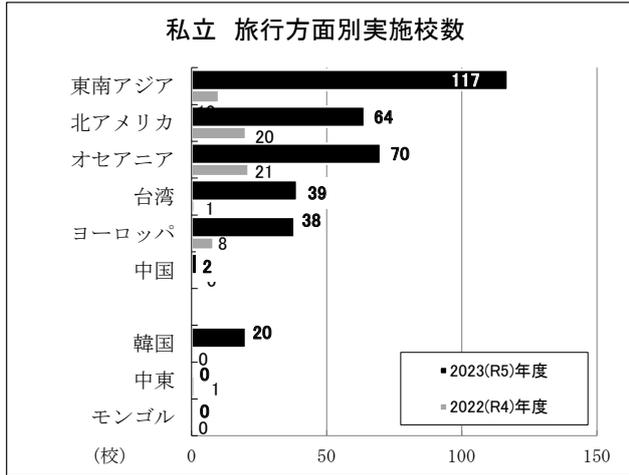
方面別の選択コースを執っている学校では、少人数ではあるがヨーロッパ(イギリス、ドイツ、フィンランド)への実施も見られた。



※グラフは延べ数を基に作成。

② 私立高等学校

- 実施校数は、236校。33,795人が参加した。旅行実施件数は362件であった。
- 旅行先（延べ数）では、37か国・地域に351校36,932人が訪問した。
オーストラリアが最も多く63校8,856人で、シンガポール54校6,811人、台湾39校3,714人と続き上位3か国はコロナ前と同様である。
- 全国の動向でも触れたが、韓国への修学旅行が伸びており（20校1,527人）、コロナ前の状況を既に上回っている。旅行費用面によるものもあるが、文化体育観光部（日本の文化庁、観光庁、スポーツ庁に当たる）による日本の主要地域でのPR活動や夏には日本の中学校・高校教職員100人を韓国に招待するなど学校間交流を促進していく政策を執っている。



※グラフは延べ数を基に作成。

[公私立中学校の状況] ※参考

中学校の海外修学旅行は、私立学校を主としており、公立学校は一部道府県での実施が見られる。
参考資料として掲載した。

- 99校7,054人（公立17校1,049人、私立82校6,005人）の実施があった。
- 公立中学校は12道府県で実施され、秋田、福島、静岡、京都、沖縄で複数校の実施が見られた。旅行方面は、校数では台湾6校、人数ではシンガポール314人が最も多く、他オーストラリア、マレーシアなど。実施時期は11、12月と3月が多く、旅行日数は4から6日間。
- 私立中学校は30都府県で実施された。
旅行方面は、オセアニア方面（オーストラリア30校2,262人、ニュージーランド10校1,080人）が最も多く全体の43%。シンガポール、マレーシアを中心とした東南アジア（22校1,177人）の23.6%とで大半を占める。実施時期は秋季（9、10月）と冬季（2、3月）が多く、5日間から8日間の修学旅行が行われた。

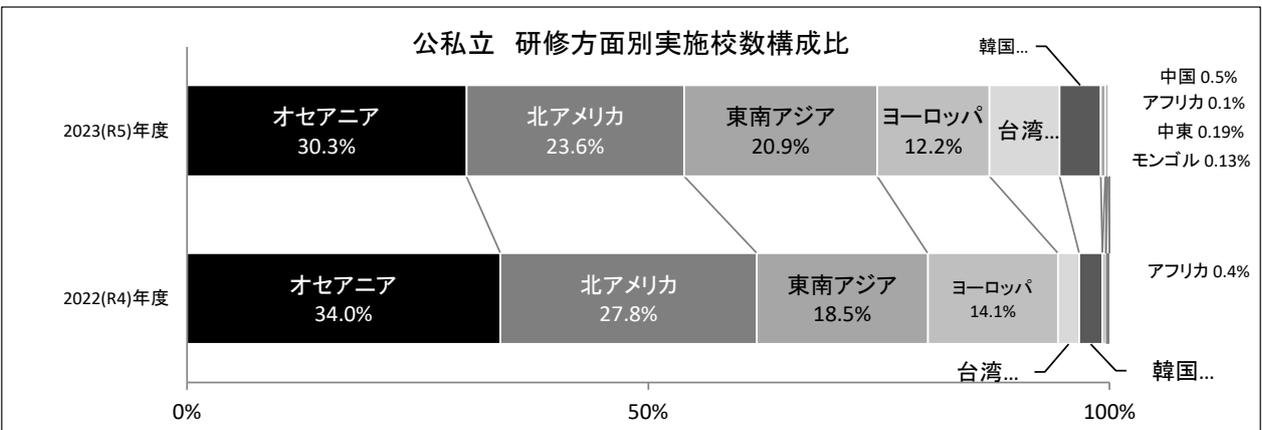
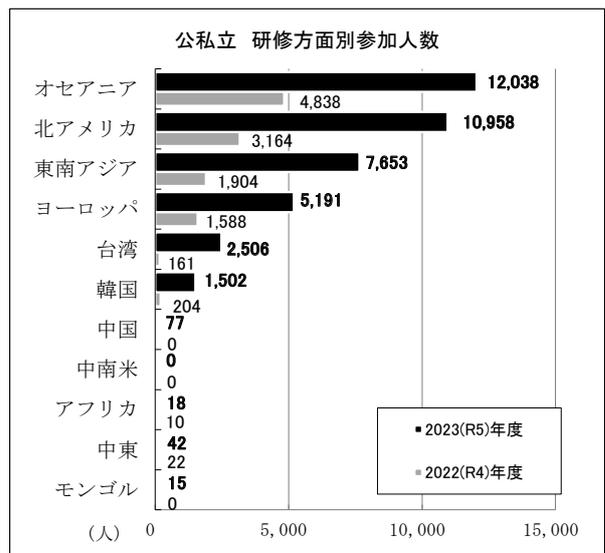
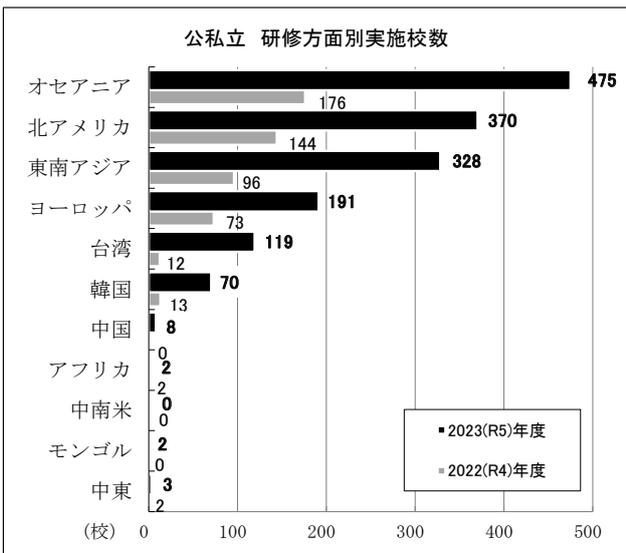
(2) 2023（令和5）年度 海外研修（修学旅行外）の実施状況

[全国の動向]

- 実施校は、1,022校（公立521校、私立501校）が実施し、参加生徒数は38,628人（公立13,556人、私立25,072人）であった。件数は、1,683件（公立644件、私立1,039件）。本格的に海外研修が始まった。
- 研修先（延べ数）では、49ヶ国・地域に1,569校40,000人（公立644校14,032人、私立925校25,968人）が参加した。
公立校は、修学旅行に関して各都道府県教育委員会の「修学旅行実施基準」にある上限費用や日数、参加人数等の定めに沿った実施が義務付けられているため、海外への再開時期を図っている学校が多いが、希望制の参加である海外研修には積極的な動きが見られる。
- 研修内容は、「ホームステイ・語学研修」「国際交流・国際理解」「学校間交流（姉妹校交流・学校訪問・授業参加）」が8割以上を占める。特化した分野の学びを目的とした「学科の特性」、短期、長期の「留学」も増加傾向にある。

実施状況

区分	計			公立			私立		
	実施校数	研修件数	参加生徒数	実施校数	研修件数	参加生徒数	実施校数	研修件数	参加生徒数
2023(令和5)年度	1,022	1,683	38,628	521	644	13,556	501	1,039	25,072
2022(令和4)年度	392	596	11,758	126	145	3,122	266	451	8,636



※グラフは延べ数を基に作成。

[公私立別の状況]

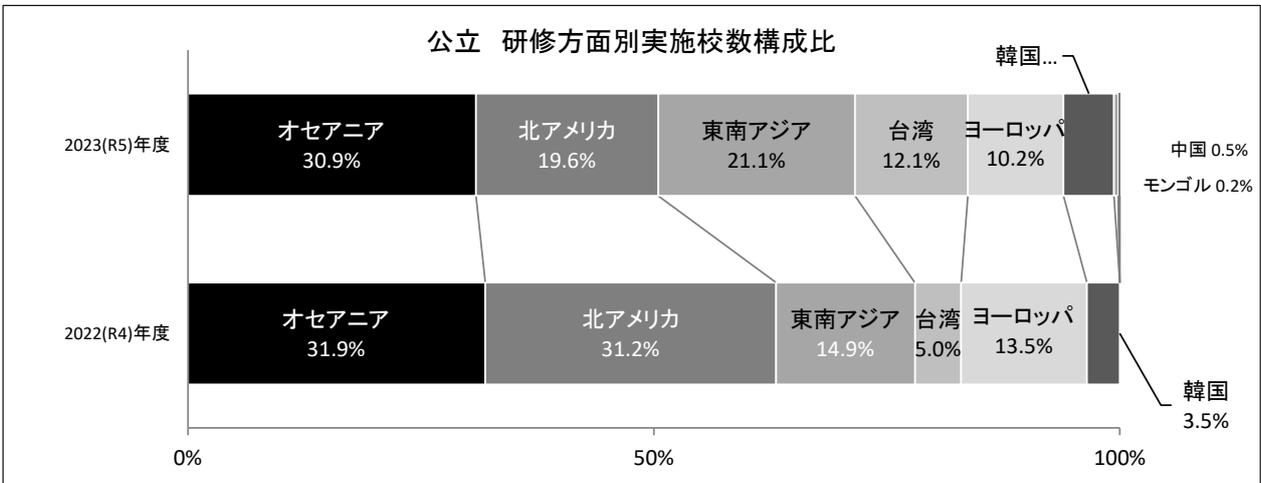
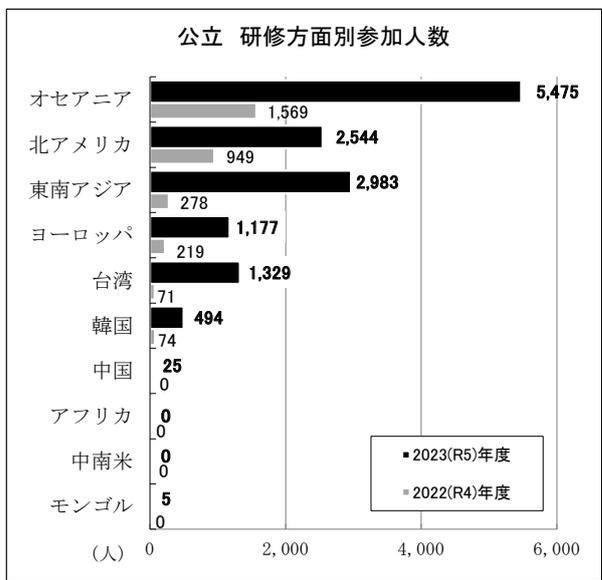
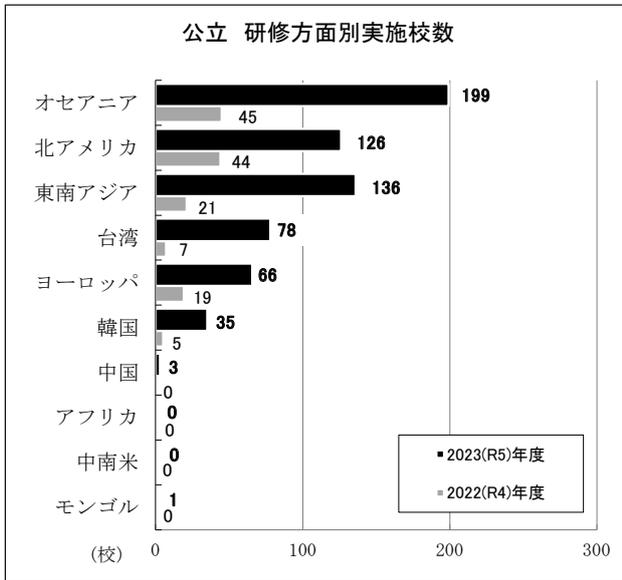
① 公立高等学校

○ 実施校は、521校（件数は644件）が実施し、参加生徒数は13,556人であった。

○ 研修先（延べ数）では、36ヶ国・地域に644校14,032人が参加した。
研修方面ではオセアニア（199校5,475人）と、東南アジア（136校2,983人）で過半数を占める。

主要国は、オーストラリア（172校4,548人）と、アメリカ本土（96校1,984人）、台湾（78校1,329人）。シンガポール、マレーシアを中心とした東南アジアとヨーロッパもほぼコロナ前（平成31・令和元年度）の状況に達している。ヨーロッパの中では、ホームステイによる学校授業参加の語学研修を目的とした、イギリス研修が最も多い（27校601人）。

○ 研修内容は「ホームステイ・語学研修」が162件4,385人（件数比24.4%、人数比31.3%）、「国際交流・国際理解」が225件5,303人（件数比33.9%、人数比37.8%）で全体の過半数を占める。別枠で集計しているが、「学校間交流」（178件3,188人）は、「ホームステイ・語学研修」「国際交流・国際理解」に含まれるケースが多く、現地学生との交流は、語学はもちろん、異文化を学び、グローバルな視野を身に付けるための、まさに「国際理解教育」として生きた学びとなるものである。

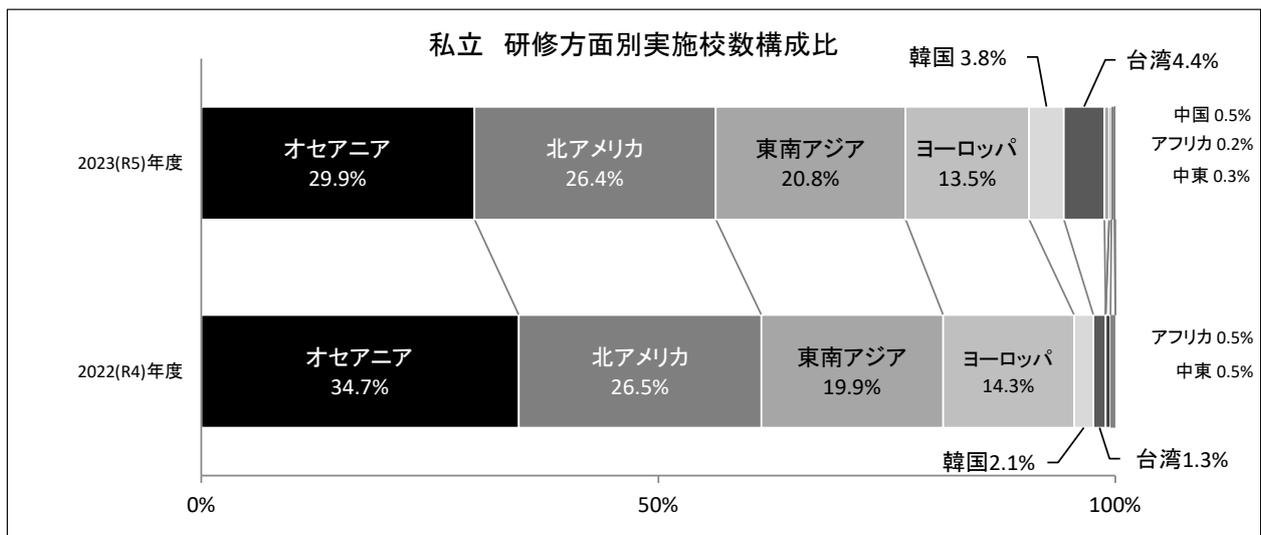
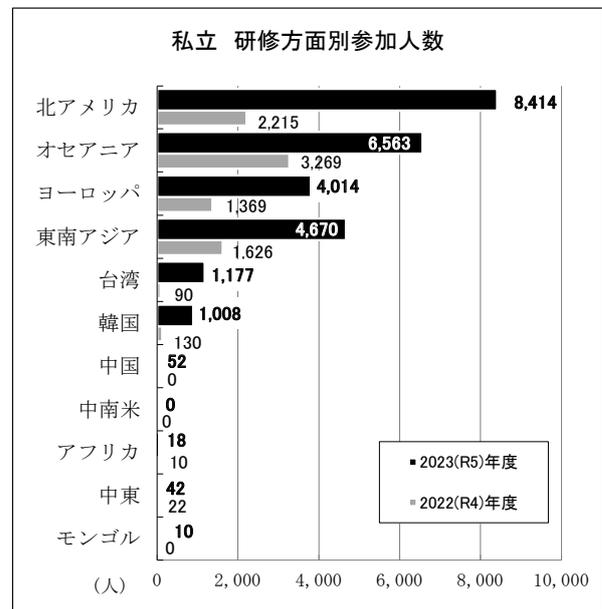
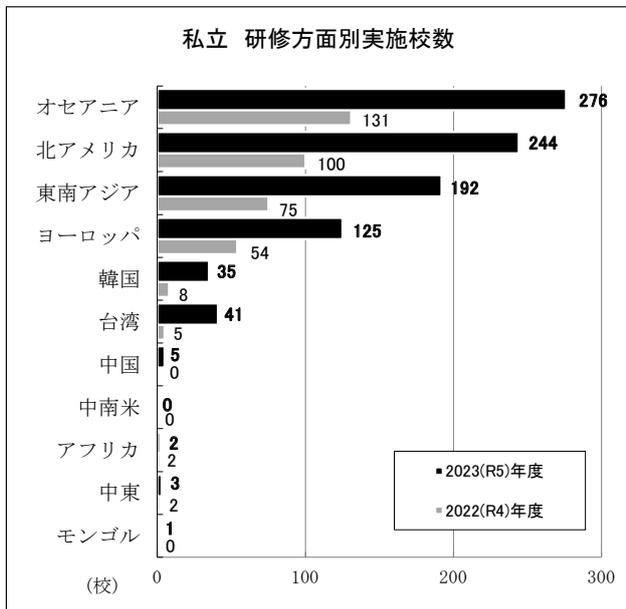


※グラフは延べ数を基に作成。

② 私立高等学校

- 実施校は、501校（件数は1,039件）が実施し、参加生徒数は25,072人であった。
- 研修先（延べ数）では、45ヶ国・地域に925校25,968人が参加した。
主要方面は、オセアニア（277校6,600人）、北アメリカ（244校8,414人）。
- 研修内容は、公立同様「ホームステイ・語学研修」494件11,845人（件数比46.3%、人数比45.6%）と「国際交流・国際理解」313件9,548人（件数比29.4%、人数比36.8%）が占める。又、多くの学校で「留学・短期留学」を取り入れており、長期の海外生活経験によるグローバルな視点を持った人材の育成に繋がる教育に力を入れている。

公立、私立共に夏季（7、8月）と3月の実施が中心となる。本年度の調査では7、8月に比べ3月の回復が早い。様々な理由があると思われるが、一因として原油価格の高騰による航空運賃の値上げが考えられる。一例として研修先国として最も多いオーストラリア研修の場合、3月実施に比べ7、8月実施は旅行費用が10～15万円ほど高額になっている。（14日間での比較の場合）



※グラフは延べ数を基に作成。